そっけん
息軒だより

令和6年度10・11月号(第46号)

発　行　宮崎市安井息軒記念館
管　理　NPO 法人　安井息軒顕彰会
理事長　徳村光郎　　館長　川口眞弘
〒889－1605
宮崎市清武町加納甲3378－1
TEL 0985-84-0234
FAX 0985-84-2634
e-mail sokken.yasui@pic.bbiq.jp
https://yasuisokken.jp

QR コードを読み取ると、記念館のホームページがご覧になれます

三 計 の 教 え

一日の計は朝(あした)にあり
一年の計は春にあり
一生の計は少壮(しょうそう)の時にあり

秋のロビー展　開催中！

今回の秋企画は、米沢藩士雲井龍雄(たつお)です。

尊王と佐幕、開国と攘夷という諸藩の思惑が微妙に交錯しながら、多くの命が失われていった幕末から明治維新という激動期に、志士として時代を駆け抜けた人物です。米沢と言えば、高鍋藩出身の上杉鷹山(ようざん)が有名ですが、龍雄は反逆罪で処刑された人物ということもあり、地元米沢では久しくその名前を口にすることはタブーとされていたといいます。

薩長主軸の新政府軍に対して、会津藩の鎮撫(ちんぶ)を拒否し団結した奥羽越列藩同盟、そこで龍雄が書いた「討薩檄(とうさつのげき)」は諸藩士の志気を鼓舞するもので、詩人としての才能が垣間見える名文です。その後新政府において集議員となるものの、国家のあるべき姿と現実の乖離(かいり)を痛烈に批判して下野します。最後は反乱の首謀者として処刑されますが、最後まで志を貫いた人生でした。彼が伝馬町の獄の中で最後に残した詩は息軒に宛てたものでした。そのことを知った時にいつかはこの雲井龍雄という人物を企画展で取り上げてみたいと思っていました。調べていくうちに、想像以上に息軒との関わりや三計塾門下生との深い交流があったことが分かり驚きました。

最後まで師を敬い慕う彼の姿が愛おしくさえなります。従来の少なからず雲井龍雄に対する悪いイメージである反逆者・はみ出し者という印象とは異なる、不器用だけれどもまっすぐに生きようとした彼の人間としての矜持(きょうじ)を感じ取っていただければ幸甚(こうじん)です。　　（文責：長野）

今年も安井息軒旧宅には　彼岸花が次々と…🌈

朝夕少しずつ涼しくなり、ようやく猛暑・酷暑が去ろうとしています。ここ数年の日本は本当に温帯なのかと思われるような気候が続いています。そうした状況下で襲来した日向灘を震源とした大地震、そして竜巻によって甚大な被害をもたらした台風 10 号、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。記念館及び国指定史跡安井息軒旧宅には軽微な被害はありましたが、幸いそこまでの被害はありませんでした。

そして秋を告げる彼岸花。例年ですと一気に咲きそろうのですが、今年はいつ咲いたらよいのか迷ったらしく、開花時期がばらばらでした。それでも何とか咲いて、季節は確かに秋に近づいています。安井息軒記念館及び旧宅は彼岸花の名所でもあります。ご案内しましょう。🍀　　（文責:川口）

先人祭　おごそかに

清武郷（清武、赤江、田野、木花、青島）は古くは旧石器時代以降大変文化が栄えたところです。 こうした土壌から稲津掃部助重政や松井五郎兵衛、井上真改等の偉人を輩出してきました。しかしながらこの地域では武芸は盛んでしたが、学問は盛んではありませんでした。こうした土壌に学問の種をまいたのは安井息軒の父、滄洲でした。そして飫肥藩清武郷校「明教堂」が創建され、息軒がそれを開花させ、学問の伝統が根付き、幾多の偉人が輩出されました。 こうした偉人たちを偲び毎年息軒の命日である9月23日に先人祭が行われます。 今年も先人廟前で厳かに先人祭が挙行されました。（文責：川口）

大場一央先生　ご来館

右端が大場先生

先日、早稲田大学等で非常勤講師をされ、多くの著作がある大場一央先生が来館されました。安井息軒顕彰会が主催する講演会に講師として招聘されての来館です。先月には新刊「戦う江戸思想―『日本』は江戸時代につくられた」が出版され週刊文春で紹介されている現代の儒学者です。中国思想や日本思想研究において陽明学や水戸学を専門にされています。2日間にわたって大場先生のお話をうかがう機会を得たことは、とても有意義なことでした。特に講演の内容には、多くの聴講者から共感と賛辞が送られました。

江戸思想を一言でいうと「人倫」と「倫理」をベースにした朱子学が提示した思想です。ただそこから、朱子学の考え方を基盤としながらも、その観念的議論を批判しながら様々な学派が派生します。抽象的または観念的なものを否定する古義学や古文辞学、心を大切にする陽明学、学派にこだわらず全てに取捨選択の網をかける折衷学、古の文献を広く正確に理解していく考証学などです。

人間は職場や家における立場（人倫）と役割（倫理）に生きることで、はじめて居る場所を得ることができ、自分自身を確認することができる。日本思想はこの目標を達成するために様々な学派に分かれて議論を深め、幕末にはそれを集大成した水戸学が登場し、息軒もまた考証学（古注学）を通じて一人で江戸思想を集大成しようとした学者なのだと語られました。

息軒は明治に入って人倫と倫理が乱れ地方が衰退していく中で、江戸思想の正しさを訴えました。「義を以て利を制す」。つまり日本はどういう国で、日本人はどういう生き方をするべきかという「義」をしっかりと定めることが大事であるとし、選挙で選ばれた人間は支持率を気にして、権力を維持することに固執し、そのためなら何でもやるから国家は乱れる。権力者が、利に走れば民主主義は民意を反映せず、国家が衰退に向かう。一人一人がしっかりとどういう社会でありたいかを理解する必要がある、と息軒は説いていると解説されました。

息軒がこの現代に通じる指摘をしていることに多くの方が感動し、より一層息軒に興味を持っていただけたと実感しました。ただ、息軒の指摘は現代を予見しているというよりは、当時から権力者はその地位と力に固執するという嘆かわしい現実を息軒はつぶさに見ていたのだろうと思います。 息軒の凄さ・偉大さを改めて再確認した2日間でした。

（文責：長野）

ご来館ありがとうございました

公平委員会視察

8月7日（水）、宮崎市公平委員会のメンバー9名が視察にみえました。みなさま、日本を近代的法治国家へと導いた息軒に関する解説に一生懸命耳を傾けておられました。

日南市飫肥あおぞら園視察

8月16日（金）、日南市の高齢者施設、あおぞら園の皆様が来館されました。当日は暑かったので、室内でのビデオ視聴を中心とした見学でした。

第2回記念館講座終了　「西南戦争で西郷軍に参加した飫肥隊」✨

9月21日記念館講座第2回が開講されました。演題は「西南戦争で西郷軍に参加した飫肥隊」、講師は日南市文化財専門担当員長友禎治氏です。

今回は通常の講座とは異なり、司会者の質問に長友先生が答えていくというような問答形式を取りました。この形式は概ね好評を得ました。改善点もいろいろとありますが、今後もこのような形式も取り入れていきたいと考えております。

講座では飫肥隊にはどのような人が従軍し、どのような思惑で西郷軍についたのかというような話をされました。西南戦争についての講話というと、西郷隆盛の動向を中心に話されることがほとんどです。今回の講座では飫肥の士族を中心にお話しいただいたため、西南戦争がより身近に感じられました。多角的な視点で西南戦争を知ることができる講座であったと思います。

今回の講座は初めての試みで司会者も不慣れであったため時間管理ができず、用意していただいた内容の半分ほどしかお話しいただけませんでした。

ホームページでもお知らせいたしましたが、12月21日の第7回講座にご登壇いただく予定でした同じく日南市学芸員の佐藤智文先生はご都合により、中止させていただくこととなりました。そのかわり、長友様に同日今回の講座の続きをしていただけることになりました。ご参加いただければ幸いです。　（文責：久保田）

息軒会読Ⅱ終了🍀

昨年度から続く『弁妄』詳解の最終回が完了しました。第3回の今回は息軒の著作の一つ『与某生論共和政事書』（某生に与えて共和政事を論ずるの書）を読み解きました。本書は、息軒がある人物に対して送った手紙の体裁をとって書かれており、最終的には絶縁状という形となっています。内容は、欧米の国家元首が人民によって選出されるいわゆる共和政について、息軒が批判的に論じたものです。かつては儒学を志し息軒に師事した人物が今では洋学に携わり、共和政でなくては富国強兵は実現できないという主張に対して、息軒が批判的主張をし、その理由・根拠を非常にロジカルに提示して論じている。その根拠であるところの当時の世界情勢が細かく説明されており、つぶさに世界の現状をキャッチしていくその情報入手力にも驚かされる内容でした。

そして、息軒が主張する共和政の弊害がまさに現代において生じていることを鑑みても息軒の本質をとらえる力の凄さをまざまざと見せつけられた感があります。息軒会読自体が、若干難しい内容なので、受講者は少なかったですが、非常に内容の濃い講座でした。次年度もこのような講座が企画できるように、宮崎大学特別准教授とも連携を図っていきたいと思います。

安井息軒顕彰小学生使節団報告会が開催されました🌈

息軒は弟子たちの勧めもあって、戊辰戦争の混乱を避け、慶応3年3月13日から足立郡領家村（今の埼玉県川口市）に9か月間疎開し、高橋家にお世話になりました。息軒は江戸の状況を案じつつも地元の人々と触れ合い、著作の整理をしました。そのことが縁で宮崎市と川口市の交流は継続しており、平成15年度からは使節団の派遣を開始しました。本年度も宮崎市内の小学生15名が使節団として東京の息軒の足跡や川口市を訪問し、息軒について熱心に学習してきました。そしてその成果の報告会が8月24日に清武総合支所で開催されました。

これからの講座・イベント情報の巻～

その1　第3･5回記念館講座

講師：宮崎大学教育学部教授　山元宣宏氏

第3回「書体と字体」
第5回「書道芸術の萌芽」

いずれも昨年度まで「安井息軒の『論語集説』を読む」の講師としてご指導いただいた山元先生による講座です。昨年度までの講座の中でも、再三にわたり書体や文字の成り立ち等についてご指導いただいていましたが、今回は2度にわたってずばりご専門の上記の内容についてお話しいただきます。乞うご期待。

その2　第4回「新息軒伝『国際派のご意見番』としての活躍」

講師：安井息軒顕彰会会員　諸岩則俊氏

講師は顕彰会会員にして風土写真家、そして近年持ち前のフットワークのよさを生かしながら、息軒研究に独自の視点で切り込んでおられる諸岩氏です。同氏は研究の成果を宮崎市立図書館や飫肥の小村寿太郎記念館等で公開されていますが、近年の研究と関連付けた講座です。乞うご期待。

※お申し込みは1面の連絡先まで、各回ごとの申し込みになります。どうぞよろしくお願いします。

その3　安井息軒記念館バスツアー

行き先は、高鍋です。資料館や高鍋城址、秋月家墓地、家老屋敷（黒水家住宅）などを巡り、また息軒に師事し、学問会の三公子といわれた秋月種樹（あきづきたねたつ）にまつわる史跡も見学します。

① 日　時　　１２月８日（日）
② 時　間　　９：００　～　１５：３０
　　集合　　８：５０
③ 参加料　　３，０００円（昼食代含む）
④ 定　員　　２０名（希望者多数の場合は抽選となります。）
⑤ 締　切　　１１月２６日（火）